

第21回

一般対象 オンライン開催

生態学琵琶湖賞 受賞記念講演

日程

2021年 8月7日(土) 14:00~16:00

会場 Zoom ウェビナー および YouTube ライブ にて配信

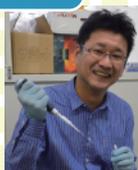
参加費 無料

* 接続情報は生態学会ウェブサイト <https://esj.ne.jp/esj/award/biwako/21lecture.html> にてお知らせします。

生態学琵琶湖賞は、水環境に関連する生態学およびその周辺分野における50歳未満の優れた研究者に贈られる賞です。滋賀県によって1991年に創設され、第15回より日本生態学会が実施しています。このたび源利文氏と吉田丈人氏が第21回受賞者となり、一般のみなさまにもわかりやすい内容で受賞記念講演をオンラインで行います。ぜひご参加ください。

講演1

「環境DNAで水中を覗き見る」



源利文氏 (神戸大学大学院人間発達環境学研究所・准教授)

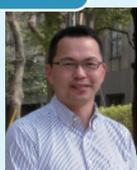
水の中にはどんな生き物がどれくらい棲んでいるのでしょうか。これをきちんと調べるためには、網や罟を使ったり、時には潜ってみたりと、かなりの時間と労力がかかります。私たちは、水中などの環境中に存在する、生き物の体の外に出たDNAを調べることで、そこに棲む生き物のことを調べることができる「環境DNA分析」という手法の開発を行ってきました。この技術を使うと、ある川のどこに希少種や外来種がいるのか、ある湖にどのような種類の魚が棲んでいるのかなどを、わずかな量の水サンプルから明らかにすることが出来ます。このような技術が開発されてきた経緯、現時点の到達点、今後見込まれるさらなる発展について私個人の視点を交えながら紹介します。

(写真左上：兵庫県内の河川におけるオオサンショウウオの生息調査。右上：カンボジアの農地における感染症の調査。左下：岡山県内の農業用水路における希少魚種の生息調査。右下：舞鶴湾における湾内のマアジの個体数推定調査)



講演2

「人と自然の関わりのこれまでとこれから：生物多様性・地域文化からの学び」



吉田丈人氏 (総合地球環境学研究所・東京大学大学院総合文化研究科・准教授)

私たちの暮らし・社会・経済は、生態系や生物多様性をもたらす多くのものに支えられており、持続可能な人間社会は、持続可能な生態系・生物多様性がなくては成り立ちません。多様な生き物の生きざまや生態系の循環と遷移の様相を明らかにしてきた生態学は、急速に進みつつある生態系の劣化と生物多様性の損失にも警鐘を鳴らしてきました。人と自然が共生する社会の追求は、これまでも取り組まれてきましたが、社会全体が到達するには未だ至っていません。しかし、地域に視点を向けてみると、人と自然の関わりのあるべき未来を指し示す地域文化が、今なお息づいています。自然と共生する持続可能な社会を実現するには、このような地域文化を継承して育てることで、生態系と生物多様性の再生・保全を進めていくことが重要です。本講演では、これまでの研究と実践を通して学んできた生物多様性と地域文化について、皆さんと共有したいと思います。(写真 福井県三方五湖でみられる生物多様性と地域文化の関わり)



問合せ

日本生態学会事務局琵琶湖賞担当
メール biwakoprize@esj.ne.jp

主催

一般社団法人
日本生態学会



協力

滋賀県

Mother Lake

7月1日
びわ湖の日
40周年